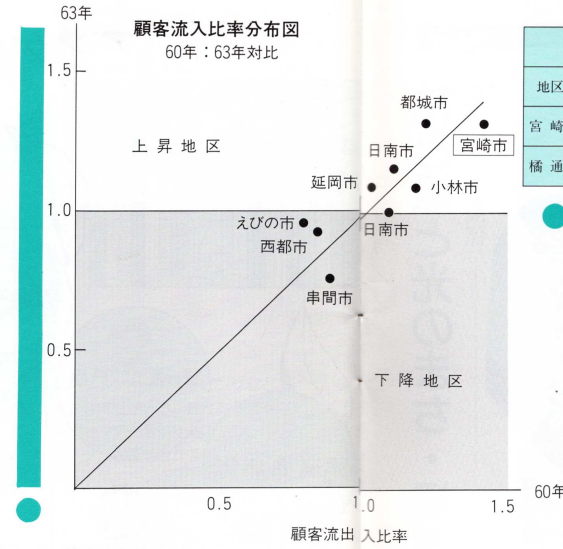
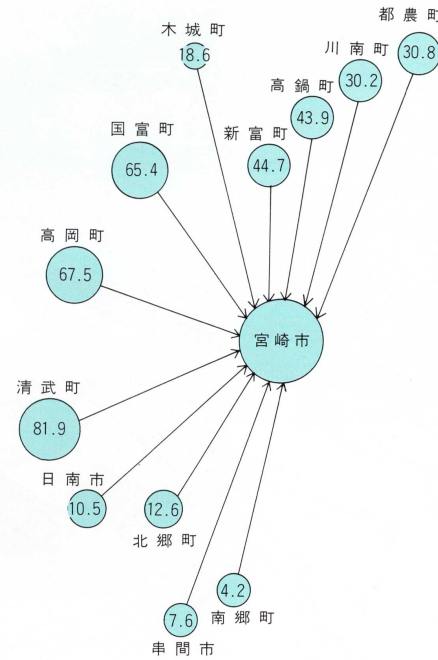


# 商業とサービスをめざします。

宮崎・橋通の商業環境

地区名	昭和50年		昭和55年		昭和60年		平成元年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
宮崎市	234,347	75,496	264,855	91,283	279,114	97,434	286,857	102,693
橋通り	53,933	—	50,024	21,366	47,910	20,826	44,844	19,911

算式1. 商業人口 =  $\frac{\text{市町村の「年間小売販売額」}}{\text{県の「年間小売販売額」}} \times \text{県の行政人口}$   
 算式2. 顧客流出比率 =  $\frac{\text{商業人口}}{\text{行政人口}}$



(単位：千円/人)

	昭和60年	昭和63年	63/60年(%)
福岡市	1,202.8	1,197.8	99.6
北九州市	918.2	950.5	103.5
佐賀市	1,095.4	1,249.7	114.0
長崎市	887.3	889.7	100.2
大分市	970.3	1,024.1	105.5
熊本市	1,180.9	1,176.4	99.6
鹿児島市	870.5	1,011.1	116.1
宮崎市	951.1	1,041.9	109.5
全 国	847.6	917.7	108.2

## 顧客流出比率

市 名	商 業 人 口			顧 客 流 出 入 比 率	
	60年(人)	63年(人)	増加率(%)	60年	63年
宮崎市	375,548	381,299	1.5	1.36	1.34
都 城 市	156,323	170,546	9.1	1.18	1.28
延 岡 市	143,841	142,366	△ 1.1	1.03	1.04
日 南 市	53,374	51,718	△ 3.2	1.01	1.00
小 林 市	47,376	44,670	△ 5.8	1.15	1.07
日 向 市	64,331	67,092	4.3	1.08	1.11
串 間 市	23,234	19,389	△16.6	0.80	0.69
西 都 市	30,500	33,579	10.1	0.80	0.86
えびの市	20,323	25,397	25.0	0.71	0.93

私たちが暮らす宮崎市の商業の様子は、いま一体、どうなっているのでしょうか。

昭和六十三年の統計データでは、商店の数は約四千三百店、従業員数約二万人、年間商品販売額約三千億円、売場面積約三十万平方メートル。

この数字を宮崎県全体の中で比較すれば、宮崎市には全宮崎の約二十三パーセントの商店が集、販売額は約三十一パーセント、売場面積は約二十七パーセントを占めているなど、県下第一の商業都市になっていることがわかります。しかしこのことがそのまま宮崎市の発展を示していることにはならないのです。

たとえば販売額の伸び率を全国平均と比べてみても、あるいは顧客流出比率をみても、いずれも減少傾向にあるからなのです。

高額商品など、まとまった商品に関しては、まだ宮崎市は周辺都市に対しても強い吸引力を持っており、中核商業都市としての役割を示しています。しかし全体としては周辺都市の発展も影響して、この中核都市としての役割が年々弱まっているのです。九州の色々な都市と比較してみても、このことははっきりと分かります。

さらに大都市に見られるように、宮崎市の場合も中心部に住む人々の減少が進みつつあり、今後はより一層、商業・サービス業としてのまちづくりが必要になっているようです。